

徒手療法家のための基礎講座

Web第18期 徒手療法概論
第5回 椎間板に対する施術法

椎間板に対する対応として、最も効果的なのは牽引療法だろう。
牽引療法は関節の項目でお話しさせていただいてるので、今回は
それに加えて別の方法をご紹介します。

椎間板テクニック

目的

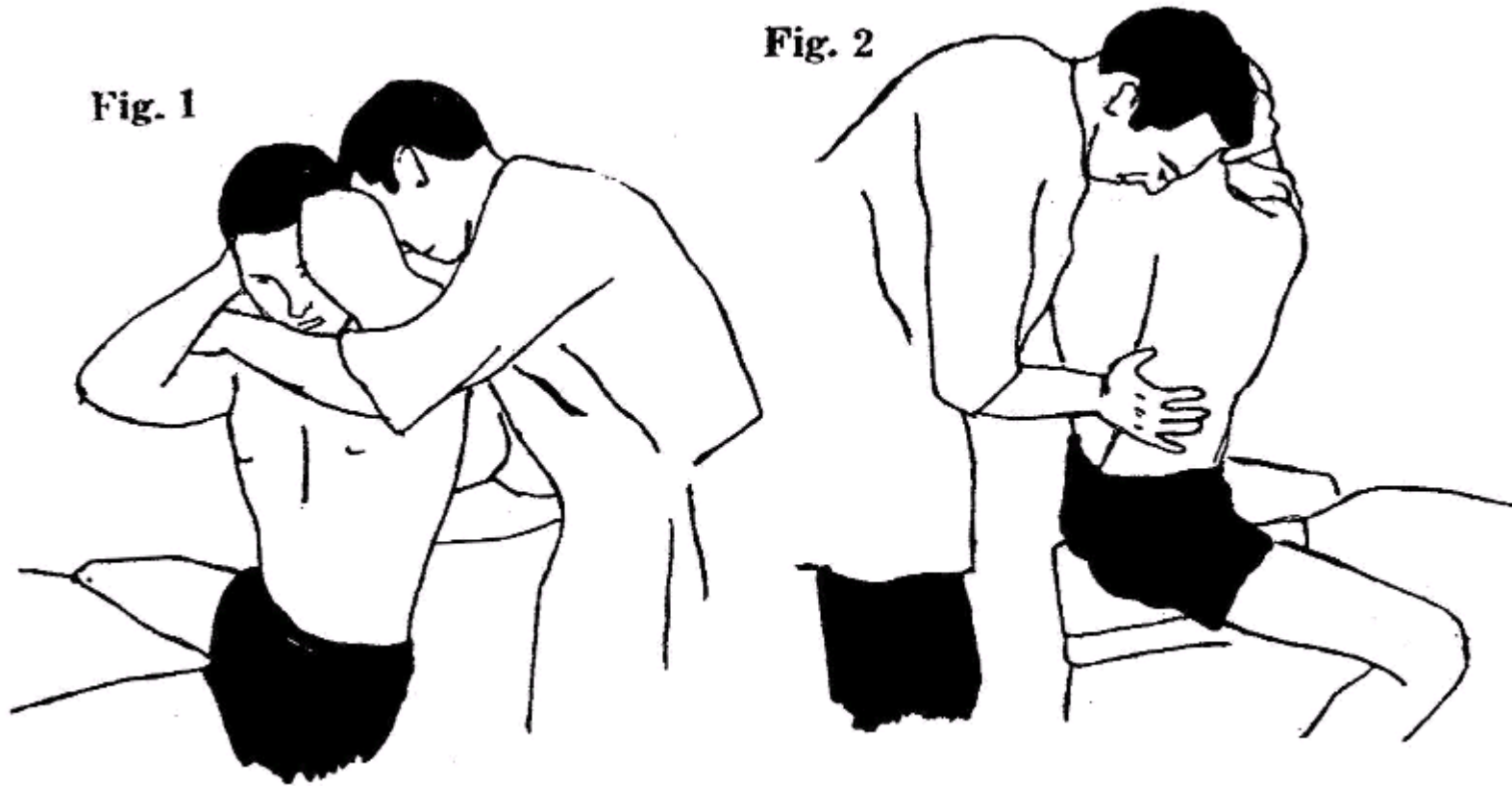
- 坐骨神経痛を伴う（伴わない）椎間板突出に起因する急性腰痛の強い痛みの制御を補助する。
屈曲、側屈、回旋の最終領域でのスラストによって椎間板後外側突出の軽減を助ける。
- **この施術はリスティングを矯正するものではない。**
この施術は椎間板突出の軽減メカニズムを理解することで実施できる。

図1と図2はセットアップの基本姿勢である。

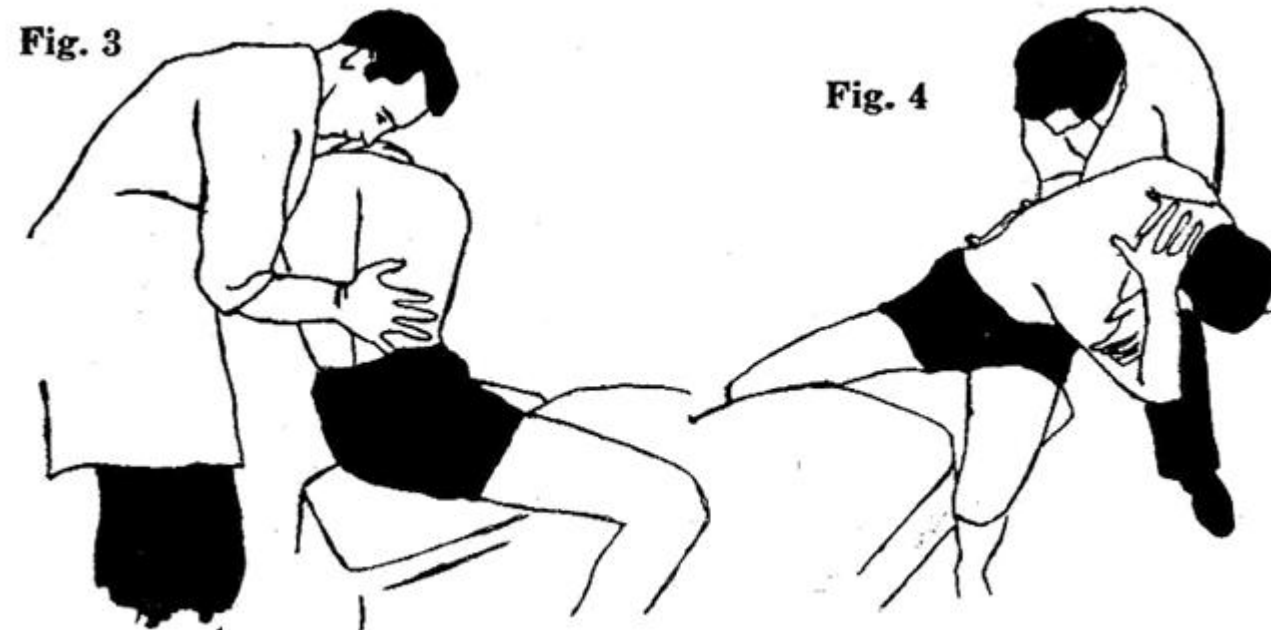
図3と図4は**右側**の後外側突出を矯正する患者姿勢を示している。

図5と図6は**右側**の後内側突出を矯正する患者姿勢を示している。

各事例において、痛みが最小限になる側へ患者を側屈させる。



右後外側ヘルニア



右後内側ヘルニア



Fig. 5



Fig. 6

方法/処置

1. 前もって施術者の考えを患者に説明することから始める。例えば、これから行う処置についての説明などである。
2. 上述した方法で、患者を施術台または椅子の上に位置させる。
3. コンタクトをする場所を触診する時は、患者に体を前方に倒して**疼痛逃避側に体を動かす**ように指示する。疼痛逃避姿勢を取っている患者を伸展方向へ誘導する時や突出部分を確認するために患者と会話しながら触診している時などは特に注意すること。

注意

1. 基本的に屈曲位を保持すること
2. 操作は屈曲→側屈→回旋の順に行う
3. 全体的には円運動のように動かし、最終的には中間位での坐位姿勢にする
4. 最終位でスラストを行っても良いし行わなくてもよい。スラストを行う場合は、すぐにコンタクトを離さずに1分間保持すること
5. コンタクトは髄核突出部または乳頭突起に行う

ガンステッド・テクニク

ガンステッド・テクニックはカイロプラクティック・テクニックの中でもとりわけ椎間板に対する影響が大きい。

以下のスライドは「ガンステッド カイロプラクティック科学&芸術」：塩川満章訳：科学新聞社より引用

ガンステッド・テクニックとは全脊柱アジャストメントの一種で、脊柱を解剖学的小および生理学的に極めて統合的な神経骨格系の一要素として扱う。このテクニックは、機能的にせよ、構造的にせよ、脊椎の一領域に生じた変化が、他の脊椎領域に生体力学的小および神経生理学的影響を及ぼすという考え方に基づいている。Clarence Gonsteadは、サブラクセーションを程度の異なるミスアライメント、関節フィクセーションおよび神経干涉の共存状態と解釈した。彼の説によると、サブラクセーションは、ひとつのフィクセーションとして始まり、やがてアライメントに乱れが生じて、持続的な機能障害へと進行するという。そして、このプロセスが、神経系のさまざまな機能障害をもたらすと考えたのである。

ガンステッドのシステムは、水平な基盤、脊柱の場合は水平な骨盤を基本にしたシステムと言える。ガンステッドは、骨盤が水平で安定していれば、（骨盤が支えている）脊柱のバランスと安定性が最高の状態になることを発見した。

彼は、フルスパインX線撮影、線引き法、モーション・パルペーション、および熱電対装置を使用するカイロプラクティック・システムを構築した。

ガンステッド・テクニックとを支える基礎理論は、椎間板の生体力学に基づいており、アジャストメントによって問題を解決するためには、椎骨を椎間板の上に正しく矯正する必要がある。したがって、X線写真で椎間板間隙を分析することがもっとも重要視される。この分析を行うために、前後像と側方像の2枚のフルスパインX線写真を撮影し、得られた画像をもとにリスティングを行って、矯正ラインを決定する。また、神経学的関与を判定するために温度測定器具も使用する。一般に使用されているのはデュアル・プローブ型単読み取り式の接触サーミスターであるが、当初はナーボスコープが使用されていた。治療用のテーブルは、各々の患者と、各脊椎分節に応じた適切なものを選ぶ。

ガンステッド・テクニックで用いられるテーブルには、ゼニス・ハイロー・テーブル、ガンステッド・ニーチェスト・テーブル、骨盤ベンチ、サービカルチェアなどがある。

このテクニックでは高速低振幅スラストでアジャストメントを行う。特異性を非常に重視するので、横突起や棘突起のようなショート・レバーしか使用しない。スラストも1～2秒間ほど分節コンタクトを維持して、軟部組織に影響を与えるが、この他のアジャストメント法やマニピュレーション法より長い時間成分である。ガンステッド・テクニックの一部の要素は、多くのカイロプラクターに採用されており、また、学生に教えているスクールも多い。

ガンステッドの症例管理

複合サブラクセーションへのガンステッドアプローチ

1. 患者の症状を注視しなさい

カイロプラクターは患者の症状を治すために行うべきではなくても、患者の症状に注目することによって私たちはどの神経系をまず矯正したらいいのか（副交感神経か交感神経か）を決定することができる。

2. 診断の参考データ

フルスパインX線

器具使用（ナーボスコープ）

モーション・パルペーション

スタティック・パルペーション

視診

血液検査

3. 正しく理解すること

神経系：副交感神経か交感神経か
関連する椎骨の決定

脊髄圧迫の部位

神経圧迫を示す椎骨のリスティング

4. 矯正の順位を決めなさい

副交感神経か交感神経か

C.S.GONSTEADの言葉

はじめに患者の問題点を注意深く、正確に探して、矯正するまで、常に鍛錬を積み重ねなさい。でも、あせってはいけません。X線、触診、器具、視診を何度も点検しなさい。

第二に、カイロプラクティックに効果があることを、いつも忘れてはいけません。効果が出ないときは、自分のやり方を振り返りなさい。カイロプラクティックの原理原則を疑ってはいけません。

第三に、カイロプラクティック治療への需要が増大したときに備えなさい。常に脊柱、神経系を研究しなさい。我々の未来は「結果」にかかっています。

土台理論 (The Level Foundation)

人間は2本足歩行の動物であるため立位時に脊椎には重力がかかります。脊椎の最も下にある土台、仙骨が基盤となりその上に第5腰椎が乗り、順番に第5腰椎という土台の上に第4腰椎、第4腰椎の土台の上に第3腰椎となり最後に環椎という土台の上に頭蓋骨がトップに乗り、脊柱の安定性を維持しています。

脊柱を建物に例えると、土台がしっかりしていることは耐久性、耐震性にとって非常に重要なことです。ほんのわずかな土台のゆがみが、建物全体の大きなゆがみを生じる原因になります。

いわば、身体の土台が骨盤です。骨盤が安定していると脊柱は最もバランスのとれた状態を保つことができます。

このように、Dr.ガンステッドは脊椎のどのレベルにおいても土台が崩れてしまうと上位に影響を与えてしまうと考え、身体にとって土台が最も重要であるという土台理論を確立した。

椎間板理論(The Level Disc Theory)

椎間板は、脊椎の中で最も重要な構造物であると考え、健全な脊椎では椎間板はどこをとっても等しい高さでなければならない、つまり正常な椎間板は平行であるべきと考えた。

すなわち、土台のゆがみが椎間板にストレスを与え、椎間板が膨れたり、傾いたりすることで周辺の神経組織に炎症が起きる。

そして、身体の様々な機能のコントロールを行っている神経の伝達を妨害し、痛みやしびれといった感覚のみならず、自律神経のバランスや関連する各臓器にも影響を与えるようになると考えた。

そして身体にとって椎間板が重要であるという椎間板理論を確立した。